

プレスリリース  
報道関係者各位

2020年11月16日  
株式会社シーフードレガシー

## 東京サステナブルシーフード・シンポジウム 世界57カ国・地域 3,800人が視聴 Webメディア「Seafood Legacy Times」創刊 次なるムーブメントへ

### ●東京サステナブルシーフード・シンポジウム2020閉幕

株式会社シーフードレガシー（代表取締役社長：花岡和佳男、所在地：東京都中央区）と日経ESG（発行：株式会社日経BP、発行人：酒井耕一）が2020年11月4日（水）～6日（金）、9日（月）～11日（水）にオンラインにて「東京サステナブルシーフード・シンポジウム2020（TSSS2020）」を開催しました（共催：ウォルトン・ファミリー財団、ディヴィット&ルシール・パッカード財団）。

今年は「ニューノーマル時代をつなぐサステナブル・シーフードとブルーエコノミー」をテーマに、6日間で国内外から総勢108名のスピーカーをお迎えしました。

シンポジウムでは、コロナウイルスの感染拡大により懸念が深まっているIUU（違法、無報告、無規制）漁業に対する国内外の対応やトレーサビリティの構築状況、今後の課題が共有されました。また、企業による海洋プラスチック問題への取り組み、ブロックチェーンやIoTなど最新技術を活用した資源管理の試み、小売企業とNGOとの連携、ESG投資などが議論されました。さらに水産庁からは、現在審議が進められている「特定水産動植物等の流通適正化等に関する法律案」や、今年12月から実施が始まる改正漁業法についても説明があり、制度の面でも大きな一歩が踏み出されることが参加者に広くシェアされました。

期間中の動画再生回数は1万500回を超え、57カ国・地域より約3,800人の方に視聴いただきました。本シンポジウムの動画は日英でオンデマンドで1年間配信も行っており、下記リンクよりプログラムやスピーカー情報を合わせてご視聴いただけます。<https://sustainableseafoodnow.com/2020/>



左：11/6に行われたライブ配信「Ocean to Table (海から食卓まで)：サステナブルな漁業を促進するブロックチェーン・トレーサビリティの活用」の様子。コロナウイルス感染対策をしながら生配信も行いました。

右：11/5に行われた「パネルディスカッション「国際連携の強化により水産界の透明性を確保する」」の様子。オンラインで日本のスタジオから海外各国をつなぎました。

